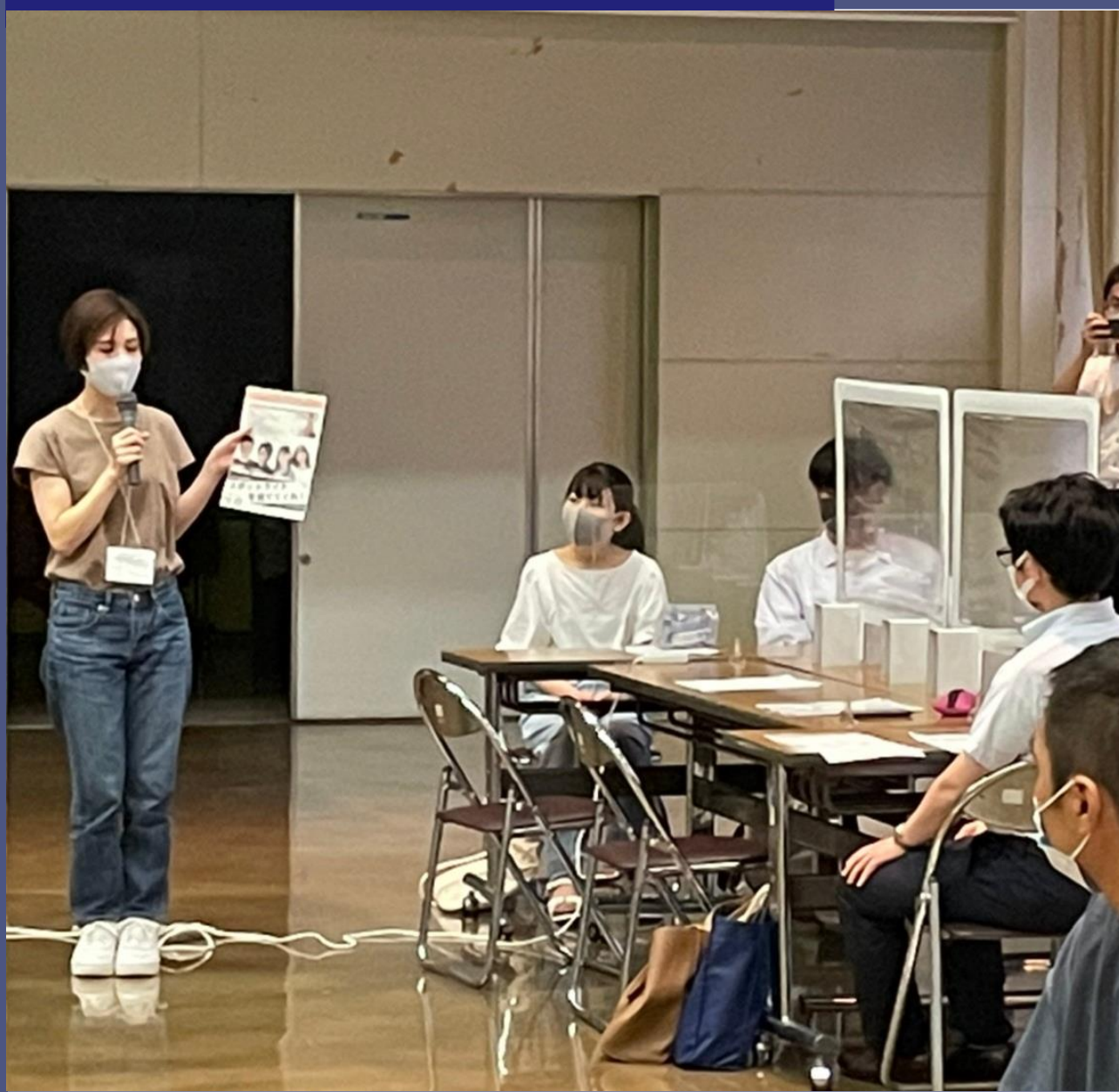


作:小田大輔
長崎旭洋



焦りと期待でみんながドキドキ



がまわか新聞

第七号

第八回全体会議

中間報告会直前の全体会議

現場風景

中間報告会に向けて 準備を進める

中間報告会前最後の
全体会議で熱い議論

七月二十日、前回に引き続いて対面で行うことが出来た全体会議、回数もオンラインを含めると七回目となる。本会議は八月一日に行われる中間報告会に向けて、各委員会が発表準備に取り掛かり、内容についての最終確認を行った。タイトルで頭を悩ませていた委員もあれば、発表の担当割り振りを考える委員会もあり、各委員会によって悩みの種は様々ようだ。

中間報告会前の最後の全体会議ということもあり、会議後も各委員会が集まり、小委員会の開催日を調整している姿が多く見られた。小委員会とは、各委員長が中心となり、ファミリーズ、オンライン、勤労福祉会館などに自発的に集まり、全体会議では話し切れなかった内容を詰め、議論を交わす場である。

また、今回の全体会議では少しでも議論の時間に充てていただくというアイスブレイクは割愛した。今まで、毎回アイスブレイクを行っていたため、どこか異様な雰囲気の中で会議がスタートした。スタート自体に違和感のあったものの、五人の委員長がうまく進行をして、最終的には今まで同様、熱い議論が交わされた。

蒲郡若者議会
初の政策発表会

八月一日に行われる中間報告会で初めて、各委員会の政策内容が発表される。四月に若者議会が始まり、すぐに緊急事態宣言が発令、議員の仲が深まらない中、オンライン会議をせざるを得ない状態でスタートを切った。それでも若者議員は丸となり政策検討を行い続け、いよいよ中間報告である。本会議内では中間報告会の発表順番も決定。トップを切る観光委員会は「自慢の地元食材」に焦点をあてた政策を発表する予定だ。その後、子供委員会、福祉委員会、地域委員会、娯楽委員会と続く。各委員会の持ち時間は六分と短い中、いかに内容をまとめて発表が出来るのか楽しみである。

中間報告会後半では、意見交流会を開催予定。若者議員と市役所職員、政策に関係している参加者が自由に意見を交わし合う時間が設けられている。

蒲若春秋



梅雨が明けて暑い季節がやってきた中、この暑さに負けないくらい熱い全体会議が勤労福祉会館で行われた。中間報告会を目前に控え、政策検討、資料作成、発表の担当決め等、各委員会それぞれが足りていないと思うものの完成に向けた議論が繰り広げられた。この熱量をしっかりと受け止めるべくメンバーも各委員会にしっかりと寄り添いアドバイスを行う。

今更ではあるが、私自身すべての委員会の政策内容を把握できているかと問われれば、「できていない」だろう。こんなことを言うとは何をやっているんだ、ともなりそうだが各委員会すべてを把握できていると答える自信がないのは事実だ。それでも、中間発表に向けて一生懸命に作成された資料を熟読し、少しでも各委員会のメンバーと同じ方向を見てアドバイスが出来る努力は惜しんでいない。若者議員の力になれるよう、より一層の努力と時間を費やしていきたいと考えている。

